

進捗状況の概要（1ページ以内）

「**学内の実施体制**」本事業採択直後より学内に学長を委員長とする AP 推進委員会を組織し、隔月で委員会を開催してきた。平成 29 年度も第 16 回から第 21 回までの計 6 回を開催し事業の進捗を図ってきた。下部組織である高大接続推進委員会が具体的事業実施主体として事業の運営を司り、中期計画高大接続推進委員会と協働して高大接続を進めている。高大接続推進委員会は毎月開催し、平成 29 年度も第 27 回から第 35 回までの 9 回開催し、事業運営を行ってきた。さらには他大学教員・高校教員の外部評価委員から構成される第三者評価委員会を開催することで、事業計画の妥当性や事業の進捗・達成状況の点検・評価を行い、課題を客観的な視点から分析し各種事業の改善を図っている。

「**中心となる取組**」高大接続の強化という点では、平成 29 年度 4 月より、それまでに準備をしてきた「アドバンスト・プレイスメント」を本格的に実施し、春学期・秋学期合計で事業取組学部である外国語学部の 37 科目だけでなく、医学部 2 科目、保健学部 4 科目、総合政策学部の 25 科目を含む 68 科目を対象科目として高校生に教育機会を提供した。ライティングセンターの稼働を通じて学生の留学準備の補助機能を強化するとともに、各種学内イベントの高校生への開放や、大学全体への事業の波及、それによる各学部教員と高等学校との連携機会の増加を通じて、大学の教育資源をさらに広範囲にわたって高校生に提供した。高校との意見交換の場としての「杏林 AP ラウンドテーブル」を継続的に開催し（平成 29 年度 3 回、通算 11 回）、本事業の取組に対する高等学校側からのフィードバックを得る機会を設け、事業成果の進展を図った。高校との合同研修として毎年度「高校と大学をつなぐ FD/SD」を開催し、教育内容・教育方法の高大接続を図っている。平成 29 年度は第 4 回を開催し、共愛学園前橋国際大学学長講演「地域連携による学びの共有と高大接続－共愛学園前橋国際大学の事例」に 145 名の参加者があった。高校生への本学が有する教育資源の開放という点では、「大学教養レベル・グローバル関連科目の夏季集中講座」（3 科目、受講者合計：高校生 20 名、大学生 126 名）を実施した。さらに、各種教育イベントの提供という点では、高校生と大学生が共に学修する場である「IELTS 対策講座」や「日英中トライリンガルキャンプ」の継続実施に加え、昨年度に引き続き「英語プレゼンテーションコンテスト」「中国語カラオケ・吹替コンテスト」に高校生の参加を呼びかけ、目的を共有する者が集う場での集中特訓や能動的学修を通じて、高大の参加者に対し留学に向けた強い意識の醸成を促した。

「**取組の成果**」アドバンスト・プレイスメントでは、春学期 5 名、秋学期 1 名、合計 6 名の高校生が履修登録し、このうち 4 名が単位を修得した。高大連携協定締結校は、事業開始前は青梅総合高校、八王子北高校、聖徳学園高校の 3 校であったが、平成 29 年度も新規に日出学園高校を加え現在では 9 校に拡大し、ラウンドテーブル開催時の意見交換だけではなく、恒常的に意見交換を行い、様々な高大連携事業の依頼・要請に応えている。

「**補助期間終了後の継続発展に向けた取組**」入学前教育及び初年次教育の改革としては、アドバンスト・プレイスメントの実施は入学前教育を画期的に改革するものであるが、さらに本事業の目的である日英中トライリンガル育成を加速するために、初年次に少人数の「スーパーグローバルクラス」を編成し、1 年次（2 セメスター）終了時には留学できる英語力・中国語力の養成を目指している。高大接続改革の入試改革として、学力の 3 要素のうち「主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する態度」を多面的評価するルーブリックを開発し、本年度実施した平成 30 年度外国語学部 A0 入試Ⅱ期（グローバル型）で選抜方法の一部として使用した。また、高大接続システム改革会議「最終報告」（平成 28 年 3 月 31 日）に沿い、平成 28 年度中に本学の各学部、各学科の三つの方針を整合性・一貫性という観点からの見直し・再点検を行い、平成 29 年度 4 月に全面改定を実施した。

「**学内外への波及効果**」平成 29 年度に、桜美林大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学の 3 大学と「アドバンスト・プレイスメントに関する単位互換協定」を締結した。今後も協定締結大学を増やし、制度普及を図っていく。